



左から副部長の小川詩織さん、部長の篠原沙矢佳さん、副部長の猪狩佳子さん

長崎大学
吹奏楽部

心を
ひとつにして
自分たちの
音楽を創る



毎年、県大会を勝ち抜いて九州大会に出場。今年の春には、打楽器の八重奏グループが九州代表として、第29回全日本アンサンブルコンテストに出場し、銀賞を

受賞するなどおおいに実力を発揮しています。篠原部長は、「心をひとつにして自分たちの音楽をつくりあげる、そういう意識を強く持つてこれからの練習に挑んでいきたい」と意欲満々の笑みを浮かべました。

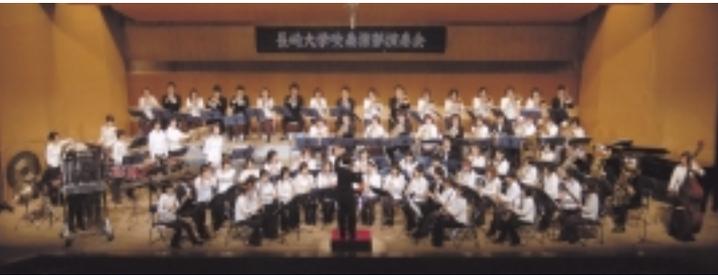
副部長の猪狩佳子さん（薬学部3年）は、「楽器の音には、自分の性格が現れます。その個性を伸ばしつつ、みんなとの演奏ではどう協調していくか。そういったことを考えることは、自分の成長にもつながると思います。」

同じく副部長で、小川詩織さん（純心大学3年）は他大学から参加したメンバーのひとりです。「中学生の頃からこの部のファンで、演奏会によく行っていました。入部当初は不安があるものですが、じきに仲良くなれます。初心者でも先輩が丁寧に教えてくれるので心配はいりません。」

毎年恒例の7月のサマーコンサートと、1月の定期演奏会は大勢の市民を前に演奏する一大イベントです。

話すのは、部長の篠原沙矢佳さん（教育学部3年）。「心に響く演奏を」をモットーに、総勢110人の部員らと練習に励んでいます。

まさまなイベントや式典などで華を添える吹奏楽。ポップスからクラシックまで、その明るくパワフルな演奏は、聴衆の気分を晴れやかに盛り上げてくれます。吹奏楽の魅力は、演奏する仲間との一体感が味わえ、観客と感動を共有できること。そして、多くの出会いがあることです。



今年7月長崎市民会館で行なわれたサマーコンサート。吹奏楽のクラシックは、管弦楽とはまた違った華やかさと優雅さがあります。

in
Summer
Concert

ポップスを演奏する時は、Tシャツ姿でカジュアルに。1年生による楽しい寸劇もあり、観客を飽きさせません。



総勢110人。7割を占める女子の明るさとパワー、そして男子のひたむきな情熱が、魅力的な吹奏楽を生み出しています。

受賞するなどおおいに実力を発揮しています。篠原部長は、「心をひとつにして自分たちの音楽をつくりあげる、そういう意識を強く持つてこれからの練習に挑んでいきたい」と意欲満々の笑みを浮かべました。